

ちほめんNEWS

VOL.26

2019.2.18

近畿財務局 京都財務事務所



2018.10.31

京都財務事務所&京都高度技術研究所（ASTEM）共催

京都の若手ベンチャーの活性化に向けて、
**「ベンチャー企業経営者と
大学生との意見交換会」**を開催
しました！



意見交換会の模様

開催の経緯

京都では多くのベンチャー企業が生まれ、中には世界に名だたる大企業として成功した企業もあり、「ベンチャー企業の街」とも言われてきました。

しかし、足元、**開業率は全国平均を下回っています。**

※2015年度:京都府 4.7%、全国平均 5.2%

（出典）2017年版中小企業白書

このため、京都財務事務所では、ベンチャー企業の新陳代謝のため若手起業家の育成を課題と捉え、ベンチャー支援の関係機関へヒアリングを実施しました。

その中で、公益財団法人・京都高度技術研究所（通称：ASTEM）から「学生の街・京都で**若手起業家の裾野を拡げるため、起業に関心のある学生やそれを支援する大学とのつながりを強化したい**」との要望を受けました。

これを受け、京都財務事務所では企画を提案。ASTEMと共催で、「ベンチャー企業経営者と大学生との意見交換会」を開催することとしました。

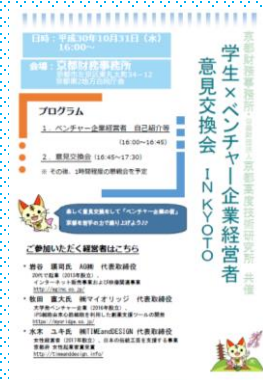
【企画のポイント】

- ① 学生が新進気鋭のベンチャー企業経営者と意見交換することで、**学生の起業意欲を醸成する！**
- ② ASTEMと、起業に関心のある学生、及び大学内の起業支援組織との**相互ネットワークを形成する！**
- ③ 「学生の街」京都における**若手ベンチャーの活性化**につなげる。

意見交換会の開催まで

まずは、起業に興味のある学生への参加を呼びかけました。

起業を目指す学生とのつながりはありませんでしたが、大学の起業支援組織への訪問のほか、これまで培ってきたネットワークを活用し、複数の大学を訪問しました。



その結果、**京都市下4大学から起業サークルのメンバーなど9名の大学生が参加**することとなりました。他にも、後援の京都市の担当者や、大学の関係者も参加することとなりました。

また、当日の意見交換会に向け、できる限り有意義な意見交換となるよう、参加学生から起業に向けた関心事項や準備状況を事前にヒアリングするなど、若手職員（ちほめん）も若手ベンチャーの活性化への熱い思いをもって積極的に準備を進めました。

ちほめんの打ち合わせ風景



大学での事前ヒアリング



意見交換会の模様

京都財務事務所の鈴木所長の開会挨拶により、意見交換会は始まりました。



ASTEMの支援内容紹介

ASTEMは、次代の京都経済を担う企業の成長・発展を支援する公的な産業支援機関。「京都市ベンチャー企業目利き委員会」や「京都市スタートアップ支援ファンド」など各種の支援制度を実施。きめ細かいサポートを実施し、地域産業の活性化、産学公連携による研究開発支援など、京都のイノベーション創出に貢献。



ASTEMの金山次長から、京都のベンチャーの現状やベンチャー企業等に対する様々な支援活動をご紹介いただきました。

意見交換会の模様（続き）

新進気鋭のベンチャー企業経営者3名にご参加いただきました。

起業までの経緯や当時の苦労話等をご紹介いただいた後、学生との意見交換会を実施しました。

○AG(株)

動画の制作技術に強みを持つ。

京都の『食』を始め、**魅力あるものを動画を通じて広げる**ことで、作り手と買い手のミスマッチの解消を目指す。



岩谷代表取締役社長



○(株)TIME and DESIGN

伝統産業を取り巻く環境は厳しく、売上の減少・後継者不足といった問題を抱える。そこで、文字だけでは伝わらない**伝統産業の魅力**を伝え、興味を持ってくれる人を増やすための**動画制作サービス**を行う。

水木代表取締役/CEO

○(株)マイオリッジ

京都大学発のベンチャー企業。

I P S細胞の実用化に向け、生産コストや安定性等の問題を解決し、**創薬分野や再生医療分野への活用**に取り組む。



牧田代表取締役社長

意見交換会にて出された学生からの質問及び 経営者からの回答（一部抜粋）

Q. なぜ京都で起業したのか。

- A. ・京都では支援機関のサポートが充実しており、ファンドからの支援も手厚く、**起業環境が整っている**。
・さらに、**立地上でも東京や大阪に行きやすい**ため、情報収集や人脈作りを行いやすい。
・伝統工芸の分野等では、**京都という「ブランド力」**も高い。

Q. 起業する場合に、一緒に活動するチームメンバーを選ぶ際の留意点はあるか。

- A. ・**事業に対するビジョンに共感**していること。
・商品やサービスに対する**思い入れが自分と同じぐらい強い人**。
・投資家には「**3人で起業しろ**」と言われる。曰く、夢を語る人、技術を持っている人、財布を握る人。

Q. 起業に当たってのハードルは何か。

- A. ・会社や自分に対する「信用力」がないこと。
色々なセミナー等に顔を出し、**人脈を広げていく**とよい。
・起業するかどうか迷っていたが、**自分の心に踏み切りをつける**ことが一つのハードルだった。
・**自分を取り巻く環境が大きく変化**すること。いったん起業すれば、**支援機関や自治体などのサポート**がある。



学生からの質問は、時間いっぱいまで続く盛況ぶりでした。そして最後は、ASTEMの孝本地域産業活性化本部長から「学生の起業への意識の高さが感じられる会だった。ぜひ、支援機関を活用し、発展していったほしい」との挨拶があり、本意見交換会は終了しました。

参加者の声

意見交換会終了後は懇親会が行われ、ここでもベンチャー企業経営者、参加学生の活発な交流・質疑応答が行われました。

意見交換会、懇親会を通じて聞かれた参加者からの感想を紹介します。

大学生

- 就職か起業かで悩んでいたが、この意見交換会を通じて**起業へ気持ちが傾いた**。
- 理系の学生は研究熱心であるが、自分の研究を起業（ビジネス）に結び付けることが苦手。経営者から、**自分の技術をビジネスに結び付けるノウハウ**を聞いたことが大変参考になった。
- ひとまずは、企業に就職したいと思っているが、やりたいことが見つければ、**起業に挑戦したい**という気持ちが出てきた。



ベンチャー企業経営者

- 良い取組だった。**自分が学生の頃にこういう取組があれば参加したかった**。学生にとって、色々質問できる良い機会であり、今後もこういう取組があれば良い。



ASTEM担当者

- 学生に対し、京都の産業支援の取り組みを紹介できたほか、**起業に関心のある学生とのネットワークができて良かった**。



最後に

複数の学生から「**また開催してほしい**」、「**非常に有意義な時間であった**」との声があり、関係者一同、嬉しく感じています。

本意見交換会がきっかけとなり、少しでも京都の若手ベンチャーの活性化につながれば幸いです。

今回の取組でお世話になった方々、本当にありがとうございました。

京都財務事務所では引き続き、こうした感謝の声を励みに、地域活性化に向けた取組を推進していきます！



地域活性化に関するご要望がございましたらお気軽にお問い合わせください。

近畿財務局京都財務事務所 総務課企画係

075-752-1417

近畿財務局 総務課企画係

06-6949-6390

kinzaikikaku@kk.lfb-mof.go.jp

ちほめんNEWSのバックナンバーは以下のURLからご覧になれます。

<https://lfb.mof.go.jp/kinki/chiiki.html>